歴史と地形から、愛知を知る。ブラアイチ

SPOT スポット 6

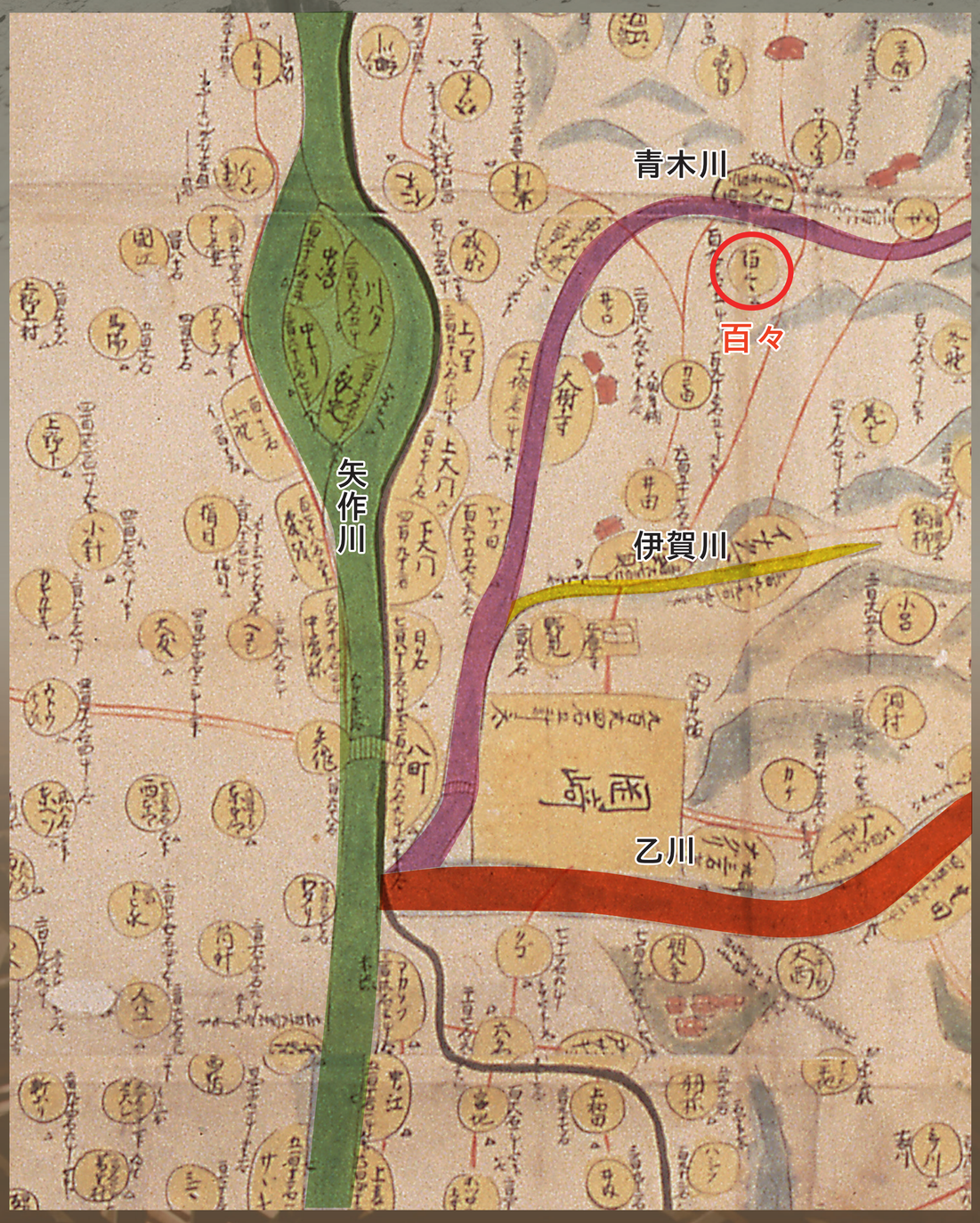
何故、現在の位置へ？～河川の付け替え～

青木川の付け替え

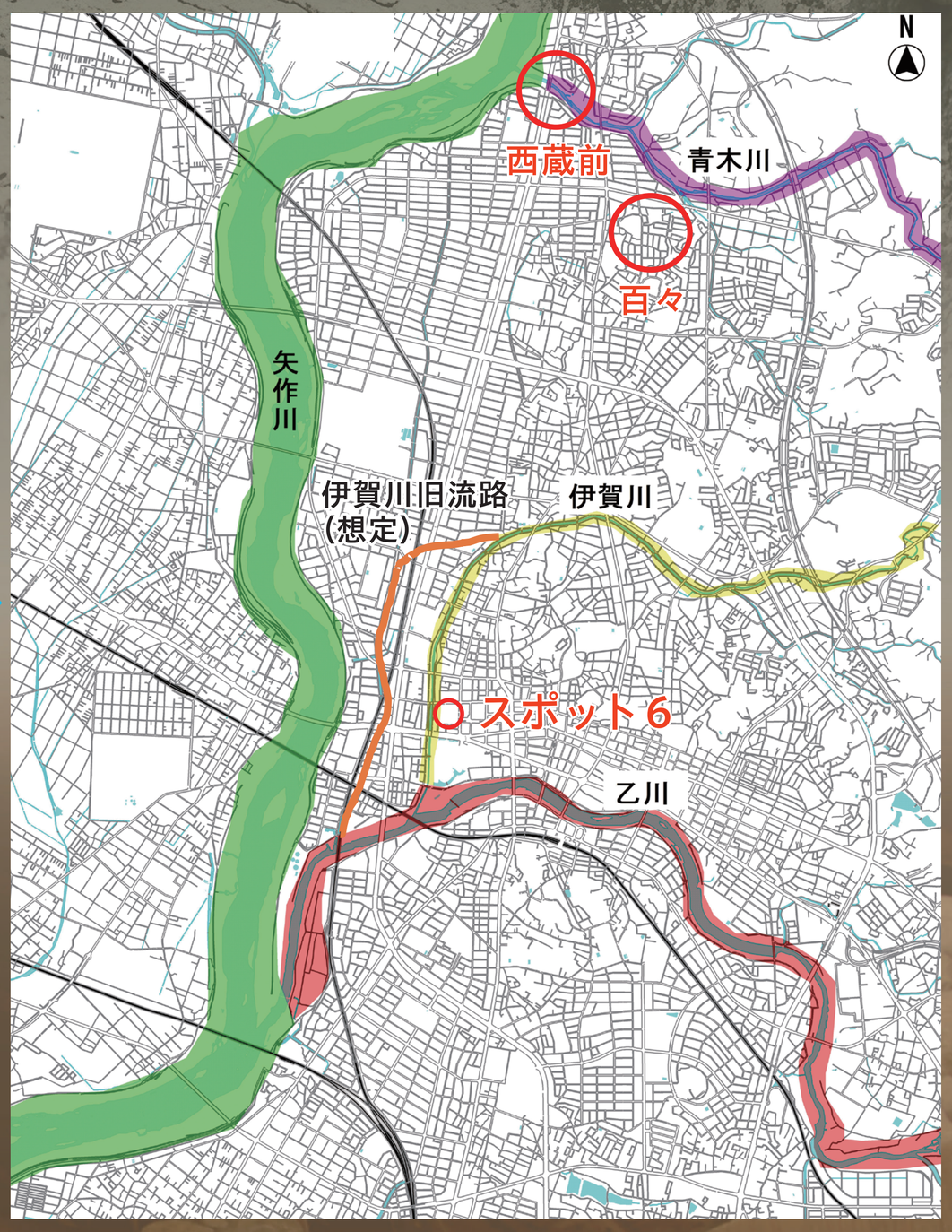
17 世紀中には青木川を現在の位置（現西蔵前町（にしくらまえちょう）周辺）で矢作川へ合流させる、付け替え工事が行われます。それ以前の青木川は、百々（どうど）で南下し、そして岡崎城の南西で乙川へ合流し、矢作川へ流れていました。

この工事は青木川の洪水の影響が岡崎城に及ぶことを防ぐために行われました。

［1650 年頃］



［現代］



参河国絵図より抜粋 一部加筆　岡崎市蔵

伊賀川の付け替え

17 世紀中に青木川の付け替え工事が行われるまでは、青木川に合流していた伊賀川。青木川の付け替え工事以降、青木川の旧流路を伊賀川のものとし、乙川へ合流していました。

伊賀川の沿岸には農地が張り付いており、伊賀川の洪水により、多くの農作物に被害が出ていたため、これを救済するために、1912 年に付け替え工事が行われました。この工事により、現在の位置、岡崎城の外濠（そとぼり）などに伊賀川が付け替えられました。

青木川は城を洪水から守るために付け替えられたことに対して、伊賀川は城に近い位置に付け替えられていることに矛盾を感じるかもしれませんが、その答えは時代背景にあります。

明治維新により、1873 年に廃城令（はいじょうれい）が発せられ、岡崎城は「廃城」となり、洪水から守る必要性は以前と比較して著しく小さくなりました。そういった背景や、新しい流路の片側が台地（だいち）であったことから堤防の代わりとなり、多くが片堤防（かたていぼう）で解決できるという財政面での利点を考慮し、現在の位置へ付け替えられました。

SPOT スポット 6

平成20年8月末豪雨 ～甚大な被害とその対策～

歴史と地形から、愛知を知る。ブラアイチ

8月末豪雨の発生とその被害

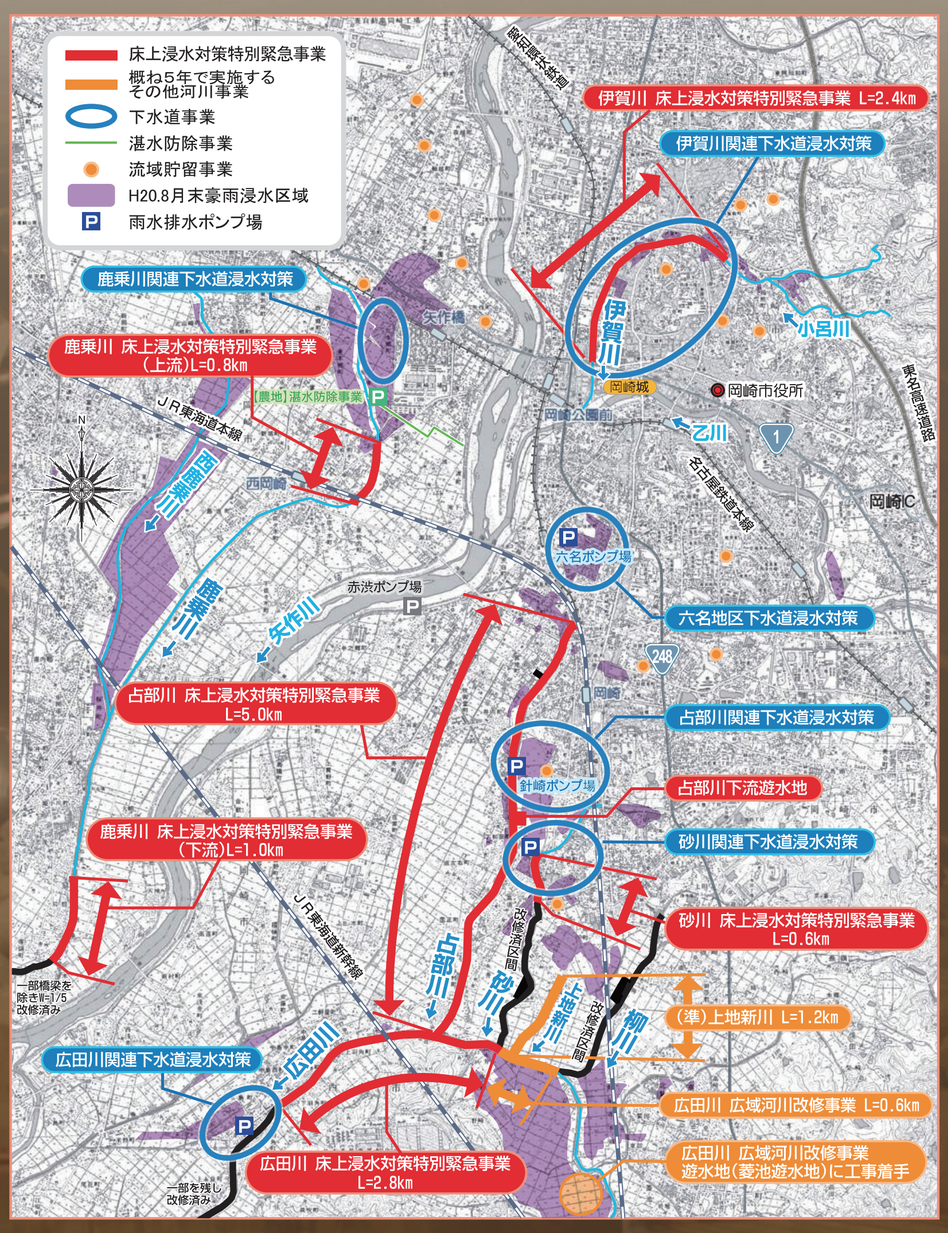
平成20年（2008）8月末には、岡崎市において観測史上最大となる、1時間当たりの降雨量146.5ミリを記録した「平成20年8月末豪雨」が発生しました。これにより、岡崎市内では、低地の内水氾濫や、中小河川の外水氾濫が発生し、犠牲者2名、床上浸水1,110棟、床下浸水2,255棟といった甚大な被害がありました。



岡崎市内の浸水状況（伊賀町）



氾濫する伊賀川



床上浸水対策特別緊急事業の実施概要

床上浸水対策特別緊急事業の実施

このような被害を再び発生させないため、平成21年（2009）から平成27年（2015）の間、愛知県と岡崎市が連携して床上浸水対策特別緊急事業を実施しました。

床上浸水対策特別緊急事業では、市内に流れる5河川※1を対象とした河川改修、連携事業の一つである下水道事業では、雨水ポンプ場整備など、緊急的な水害対策を実施し、目標とする規模の降雨に対する安全性の向上を図りました。これにより、事業実施前と比較すると大幅に浸水被害が軽減されました。

一方で、近年は地球規模の気候変動により、想定を大きく超える大雨が降る頻度が全国的に増加傾向にあるため、引き続き、各河川管理者が連携して河川改修等を行うとともに、社会全体で大雨に伴う浸水被害に備える必要があります。

また、5河川を対象とした河川改修は、河川環境等に配慮した「多自然川づくり（たしぜんかわづくり）」を意識して行われました。

伊賀川で行われた改修区間の内、三清橋（さんせいばし）から瀧見橋（たきみばし）までの490m区間においては、2018年度に公益社団法人土木学会の土木学会デザイン賞優秀賞を受賞しています。



土木学会デザイン賞優秀賞を受賞した伊賀川の「多自然川づくり」

※1　伊賀川、広田川、占部川、砂川、鹿乗川